

1. 本校の教育目標とめざす学校像・生徒像

【教育目標】

人間尊重の精神を基調として、広い視野をもって未来を主体的に生き抜く資質を養うため、次の目標を掲げ、全教職員で教育実践に取り組む。

恵まれた環境を生かし、

「自主的で品の良い、健康的な、努力を惜しまない生徒」を育てる。

めざす学校像

- ◇「感動」・「笑顔」・「希望」をキーワードに、生徒が生き生きと活動する学校。
- ◇教職員と生徒、生徒同士が信頼関係で結ばれたぬくもりのある学校。
- ◇学力の基礎・基本を定着させるとともに、学力を向上させる学校。
- ◇規律・秩序が保たれ、健康・安全・安心を確保する学校。
- ◇保護者及び地域との連携を深め、保護者と地域に信頼される学校。

めざす生徒像

- ◇人間性豊かで思いやりのある生徒。
- ◇自ら考え、自主的に行動する生徒。
- ◇明るく健康で、気力あふれる生徒。

2. 学校経営の基本理念

【基本理念】 すべての教育活動を通じて「21世紀型能力」を育成し、
『社会人基礎力』の土台を築かせてまいります。

『社会人基礎力』とは、経済産業省の定義によると、社会に出た時に必要となる基本的な能力のことです。法的には、中学校を卒業すれば仕事に就くことが認められていますので、義務教育終了時には、当然のことながらその土台が作られていなければなりません。

現在、大田区では各中学校が地域の小学校と連携し、義務教育9年間を見通しながら小中一貫教育を行っております。本校は、その中で、『社会人基礎力』の土台を築かせていくことをめざし、広い意味での「進路指導」を核とした学校経営を推進してまいります。

本来、「進路指導」とは、習得した知識や技能をもとに的確な判断を下すことができる力や、自分自身の生き方を見出しながら主体的に人生を切り拓いていくことができる力など、未来を生きていく上で大切な力を子どもたちに付けさせる指導であると考えます。即ち、国立教育政策研究所が提唱した『21世紀型能力』（「思考力」・「基礎力」・「実践力」の三層構造の能力）を育成していくための指導であると考えます。この考えの下、すべての教育活動における指導を、広い意味で「進路指導」と捉え、展開してまいりたいと存じます。

また、現代は可能な限り短期間で結果を出すことが求められています。義務教育のゴール、さらにはその先に向けて長いスパンで結果を追い求めていくことも重視しなければならないのではないでしょうか。教師が目の前にある課題への対応だけに終始するのではなく、常に子どもたちの進むべき未来をきちんと見据えて、一人一人の成長を考えながら日々の指導をしていく方向へと、学校全体の指導観を変えていくことが大切であると考えます。

3. 本年度の学校経営の基本方針・重点方策等

- 【基本方針】**
- (1) 安全に対する意識を高める学校づくり
 - (2) 健康増進の実践力を培う学校づくり
 - (3) 確かな学力の定着と向上を図る学校づくり
 - (4) 豊かな社会性と人間性を育む学校づくり
 - (5) 生徒一人一人の夢を育む学校づくり

☆ どの子ども「大森四中に入学してよかった」と思える学校に！

(1) 安全に対する意識を高める学校づくり

- ① 校内の安全点検を定期的に確実にを行い、不備があれば迅速に安全対策を講じます。
- ② 具体的事例をもとにケーススタディを行い、生徒の危険回避・安全についての意識を高めさせていきます。
- ③ 避難訓練や防災教育を通して、地震等の自然災害から身を守る実践力を身に付けさせていきます。
- ④ 授業・部活動・体育的行事等におけるけがの防止に向け、最大限努力してまいります。
- ⑤ 危機に陥らぬよう事故の予防に努めると共に、的確に危機対応できる体制を確立させます。

(2) 健康増進の実践力を培う学校づくり

- ① 生徒が主体的に健康の保持・増進に向けて取り組んでいけるよう、健康教育を推進していきます。
- ② 生徒一人一人の体力向上に向けた意識を高め、目標に向かって自ら進んで実践する力を身に付けさせながら、活動の源である気力も高揚させていきます。
- ③ 給食指導をもとにしながら食育を推進し、食の重要性についての意識を高めさせていきます。

(3) 確かな学力の定着と向上を図る学校づくり

- ① すべての授業において、学習規律を確立させ、学ぶ土台を固めます。
- ② 21世紀型能力の育成を意識し、教えるべきことは徹底して教え込み、考えさせるべきことはじっくりと考えさせながら、活用力を伸ばしていきます。
- ③ 授業の中で、主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)を効果的に展開し、理解を深めさせていきます。
- ④ 各教科の学習の中に、根拠に基づき筋道立てて結論を導き出すような取組を取り入れ、論理的な思考力を鍛えていきます。
- ⑤ 特に、授業の導入と評価活動に工夫を凝らし、ICT機器を活用しながら意欲・興味・関心の高揚を図っていきます。
- ⑥ 「わかるまで」「できるまで」、個に応じた指導を充実させながら基礎基本の定着を図ると共に、理解の早い生徒にも目を向け、力を伸ばしていきます。
- ⑦ 日常生活と各教科の学習をリンクさせ、「実感を伴った理解」の深化を図ります。
- ⑧ 教科学習だけでなく、全教育活動を通じて言語活動を意識した指導を展開し、特に発表力の強化に力を入れていきます。

- ⑨ 読書学習司書の支援により、朝読書の充実を図ると共に、読書週間の取組や推薦図書を紹介等、読書活動の活性化を推進します。
- ⑩ 補習にも力を入れ、自ら学ぶ姿勢を築かせていきます。
- ⑪ 小学校との連携強化を図りながら、9年間を見通した教科指導を進めていきます。
- ⑫ 配当予算を教科指導に十二分に生かし、授業の充実に努めてまいります。

(4) 豊かな人間性と社会性を育む学校づくり

- ① 生徒との人間関係を大切にし、生徒理解に基づき、信頼関係を基盤としながら指導を展開していきます。
- ② あらゆる機会を捉えて、人権尊重の理念を正しく理解させ、自分も他人も尊重する姿勢を育んでいきます。
- ③ 学級・学年活動を通じて相手を思い遣る能力を育て、互いに成長できるような集団づくりを進めていきます。
- ④ あいさつや礼儀作法をはじめ、大人としての立ち振る舞いが身に付くよう、具体的な礼節についての指導を充実させていきます。
- ⑤ 「特別の教科道徳」の趣旨に基づいた道徳授業を展開すると共に、全教育活動を通じて道徳の指導を重視し、社会生活を送る上での基盤作りを行います。
- ⑥ 校則の遵守については1つ1つ丁寧に指導し、規範意識を定着させていきます。
- ⑦ 予防的な生活指導を強化すると共に、問題行動を見逃さずに初期指導を徹底していきます。
- ⑧ 常日頃より教育相談を重視しながら、いじめの根絶と不登校を防ぐ取組を充実させていきます。
- ⑨ 生徒会活動・各種委員会活動やボランティア活動をはじめとして、生徒の活躍の場と機会を広げ、自己肯定感を育むと共に、主体性を伸ばしていきます。
- ⑩ ESD(持続可能な開発のための教育)の視点に基づき、さまざまな角度から考えさせ、それをつなげさせていく活動を展開していきます。
- ⑪ 視野を広げさせるため、オリンピック・パラリンピック教育を推進する中で、国際理解教育の視点を重視してまいります。
- ⑫ 様々な場面で「直接的な体験活動」と「啓発的な体験活動」を重視し、人間の幅を広げさせていきます。

(5) 生徒一人一人の夢を育む学校づくり

- ① 一人一人の生徒が着実に成長できるよう、教職員が連携しながらさまざまな立場から支援していきます。
- ② 子どもたち一人一人を全校職員でよく見ながら的確な評価を多面的に行い、自己肯定感を高める指導を工夫してまいります。
- ③ 「できた」という事実を大切にし、一つずつ「できる」ことを増やさせ、自信をつけさせます。
- ④ 広く地域や社会に活動の機会と人材を求め、夢をふくらませるきっかけづくりとなるような出会いを可能な限り設けていきます。
- ⑤ 教育活動を進める中でさまざまな機会を捉え、「生き方を問い直す指導」を実践していきます。
- ⑥ 各種検定へのチャレンジ等、「自発的な学び」を推奨します。
- ⑦ 中1ギャップを意識しながら、小学校6年生から中学校1年生へのスムーズな接続を図るため、小学校と連携して中学校入学に向けた指導を行ってまいります。

4. 本年度の指導の重点・重点方策

【指導の重点】

- ① 「自己肯定感」と「自己有用感」の高揚
→ 教育相談の充実を図ると共に、生徒の活躍の場と機会を広げ、一人一人の「居場所」と「出番」をつくっていきます。そして、その中で自己肯定感と自己有用感を高め、自信をつけさせていきたいと思います。
- ② 「論理的想像力」の育成
→ 様々な教育活動の中で生徒一人一人に筋道を立てて考える経験と先を見通して考える経験を積ませていきます。その蓄積により「論理的に考え結果を想像しながら自分の行動を決定できる力」を育てていきます。

【支援と指導の改善に向けたツールの重点活用】

- ① 各種調査データの活用
* 昨年度より導入された“ハイパーQ-U”をはじめとして、様々な調査の結果を分析し、学級経営・学年経営に十分活かしていきます。
- ② ICT機器・ソフトウェアの活用
* 電子黒板・タブレット・電子教科書等の活用については、「効果を考えながら試行錯誤する」という段階へバージョンアップしていきます。
- ③ いわゆるアクティブ・ラーニングの活用
* 理解を深化させるための手段として、主体的・対話的で深い学びを授業に効果的に取り入れていきます。

5. 教育活動の取組の結果として得たいと考えていること

【結果として得たいこと】

